

創刊にあたって

埼玉県立文書館が、新館での業務を開始してすでに二年の歳月が経過しました。その間、保存利用機能の整備や教育普及活動の充実に努めてまいりました。

昭和五十九年度には、収蔵古文書目録二冊、行政文書件名目録一冊、蔵書目録一冊、計四冊の目録を編さん刊行いたしました。また、古文書解説講座、歴史講座、展示等の事業を積極的に開催し、県民の方々の好評を博しております。

これら多岐にわたる文書館事業のすべての裏付けとなっているのが、日常の調査研究活動であります。その成果の発表は、従前においても、文書館報や各種目録の解説等でなされてきました。しかし、これらは紙面の限定や内容の制約があって、部分的な発表にとどまり、十分な研究成果発表の場とはなっておりませんでした。

本館では、新館開館以来このような活動の場としての刊行物発行の構想を練ってまいりました。事業記録的ものについては、五十八年度来「要覧」を発行し、本年度は第三号を刊行いたします。そこでこのたび事業研究的なものとして、従来の文書館報を発展的に解消し、「文書館紀要」を発刊することにいたしました。

忙しい日常業務の中でまとめられたものは、学術論文的なものから事業研究的なものまで多方面にわたっております。多数の職員の協力を得て、ここによく本誌が創刊の運びに至ったことは喜ぶに堪えません。

今後より一層調査研究活動の充実を図り、県民に親しまれる文書館としての体制を確立していきたいと考えております。本誌の刊行が、学術研究や行政の参考に少しでも寄与することができれば幸いです。どうか、今後とも御支援、御協力くださるようお願いいたします。

昭和六十年八月

埼玉県立文書館長

秋 葉 一 男